

# 光陽興産株式会社

DX戦略 2025



光陽興産株式会社  
KOYO KOUSAN Co.,Ltd.

## 1.DX推進における基本方針

1. バックオフィス業務の最適化と生成AIの活用により、業務効率を大幅に向上し、残業削減と生産性の継続的な改善を実現する。
2. デジタル技術・生成AIを活用し、従業員が創造性を發揮しやすく働きやすい環境を整備し、組織の活力と定着率を向上させる。
3. BIツールおよび生成AIを活用したデータドリブン経営を推進し、お客様への付加価値の高いサービス提供を強化する。
4. デジタル・データリテラシーとともに生成AIリテラシーを備えたDX人材を育成し、自律的に革新を生み出す組織を形成する。

## 2.DX推進プロジェクト達成状況をはかる指標

以下の指標をKPI指標として、DX推進プロジェクトの達成度を管理する。

### 1.業務効率化による、1人当たり残業時間の削減

【実績】



2022年度:14.8時間/月

2024年度:12.1時間/月  
(▲2.7時間/月)

TARGET



【目標】

2027年度:5.0時間/月

## 2.DX推進プロジェクト達成状況をはかる指標

### 2.従業員定着率

現在 (Before)

**70.37%**

※計算対象：(2023～2025年に入社した正社員)



2027年度 目標 (After)

**92.0%**



## 2.DX推進プロジェクト達成状況をはかる指標

## 3.DX人材の育成

DX化を円滑に進めるため、全社員のIT知識を底上げを目指す。

ITスキルレベルに明確な基準を設けて評価につなげる。



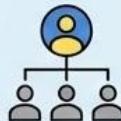
### スキルの可視化

外部アセスメントサービスを活用し、全社員のITスキルを定量的に可視化する。



### 社内認定制度の策定

スキル可視化の結果に基づき、3段階（ゴールド・シルバー・ブロンズ）の独自の社内資格制度を策定・導入する。



### 人材の最適配置

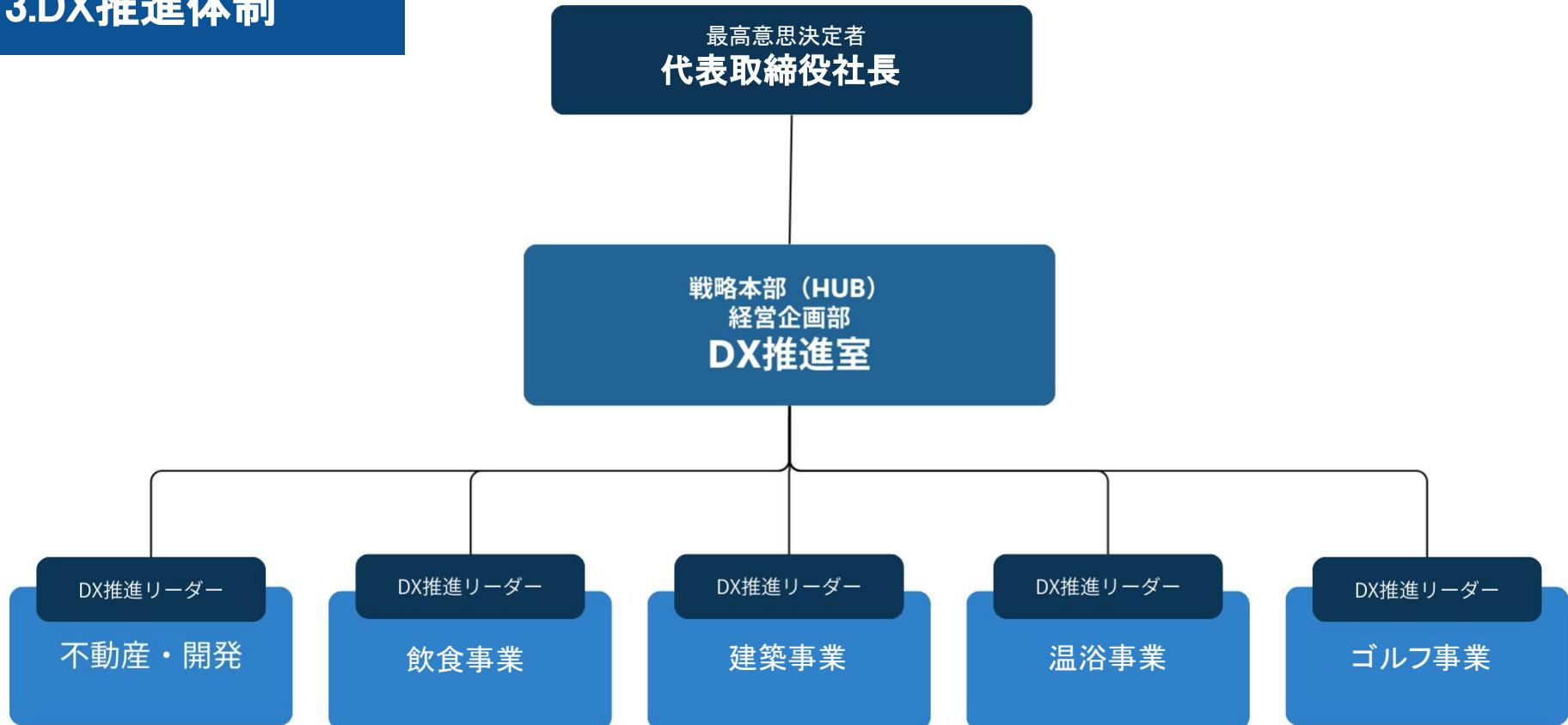
各部署に「シルバー」以上の認定者を1名以上配置することを義務付け、組織全体のITレベルを担保する。



### 推進体制の強化

シルバー以上の人材から「DX推進リーダー」を選出し、DX推進室と現場を繋ぐ「ブリッジ人材」として、現場主導の変革を加速させる。

### 3.DX推進体制



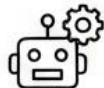
## 4.DX人材育成に向けた取り組み



### 社内IT勉強会

経営企画部が講師となり、現場の課題解決に直結するITツールの活用手法やリテラシーを全社で共有・底上げする

都度



### 生成AI活用会

各部署の選抜担当者が、月替わりのテーマでAI活用事例を検討・試行し、実務への実装と業務効率化をスピーディーに推進する

月1回



### DX大会

データ分析に基づいた具体的な施策成果を全社に発表し、優れた取り組みを表彰することで、データドリブンな企業文化を醸成する

年に1回



### 外部研修への参加

社会情勢や最新の技術トレンドを適時キャッチアップし、社内だけでは得られない高度な知見を導入することで、専門スキルの継続的なアップデートを図る

都度

## 5.デジタルツールの活用



### GWS・AI系



#### Googleworkspace

スプレッドシート、Googleフォーム、  
Googleスライド、appsheet、  
ルッカースタジオ、Googleサイト 等



#### Gemini・notebookLM

AI活用による業務効率化、自動化



#### AI賃料査定

ビッグデータから賃料をAI自動査定



### 業務効率化・管理系（それ以外）



#### ロボパッド (RPA)

データ入力の自動化



#### KING OF TIME

勤怠管理のデジタル化



#### chatwork

情報共有・コミュニケーション



#### iPad

業務ツールとして全社員にiPad配布



#### ourly

社内報のWEB化（情報共有・  
コミュニケーション）



#### ITANDI 賃貸管理

賃貸問い合わせの一部自動化、  
問い合わせデータ分析



#### ZOOM、LINE

物件内見・重要事項説明の  
オンライン化



#### WealthPark

オーナー収支のデジタル化



#### totono

入居者とのコミュニケーションの  
デジタル化



#### ちんたいいちょう (WEBマニュアル)

社内マニュアルのデジタル化、  
室内チェック



#### カイクラ

電話対応・SMS履歴をPCや  
タブレット・スマホで確認

## 6.DX推進シナリオ

	Phase1 今まで(~2025年)	Phase2 中期計画(~2027年)	Phase3 長期課題(~2029年)
バックヤード業務のデジタル化	RPAやGASを導入しルーティン作業を自動化。CSVデータ抽出等の効率化を図る。RPAやGASを導入しルーティン作業を自動化する。	ノーコードツールで分散データを集約するシステムを構築。各種データの結合を可能にする。データの2重入力をゼロにする。	集約データを基に、AI予測や高度分析を実施。バックヤードの定型業務の完全自動化と、リアルタイムデータ管理を完遂する。
IT人材の創出	デジタルスキル標準(DSS)基準の外部測定サービスを活用し、現状スキルを可視化・把握する。	社内DX資格や人事評価制度を整備し、スキルアップのモチベーションに繋げ、全社的なITスキル向上を推進する。	現場主導で価値創出ができる人材を全部門に配置する。全社的に、自律的な課題解決文化を定着させる。
組織体制の変革	組織横断チームを設立し各部門からメンバーを選出。全社的なDX推進活動を開始する。	全社的なDX戦略を策定。部門横断的な体制で顧客支援と課題解決を具体的に実施する。	ITで部門間の壁を撤廃し、顧客要望に即応する組織を確立。地域社会と繋がるサービスを追求する。



光陽興産株式会社  
**KOYO KOUSAN** Co.,Ltd.